

教職課程センター 公開研究会

# 「自然とあそぶ子どもたちー実感のある学びを地道に創る」

5月31日(土) 13:00~16:15

慶應義塾大学三田西校舎1階 516番教室(南校舎2階421番教室から変更になりました)

講師: 中河原良子氏(東京都公立小学校教員)

司会: 藤本和久(教職課程センター)

学習指導要領が10年ぶりに改訂されました。その方向性からは、ゆとり教育を時間・内容・方法のあらゆる面から見直しをおこない、理数教育や言語教育、さらには徳育の強化など、知や徳の「中央集権的管理」を目指すものになっていると読み取ることができるでしょう。ここ20年間弱、現場の教師たちは、生活科や総合学習といった新たな学習領域にむきあい、丁寧に実践を重ねてきました。最初は、戸惑いや反対の声もあったこれらの学習領域も、いますっかり定着し、学校における授業研究の最重要課題として、また、子どもの姿を生々しくみとる局面としてかなりの充実を見せてきています。にもかかわらず、今期の学習指導要領改訂では、総合学習の配当時間は縮減されることになっています。そして、まるで失われた10年、20年であったかのような語られた方を耳にすることがありますが、果たして本当にそうなのでしょうか?

中河原先生は、このカリキュラムの激動の時代にあって、自然とのかかわりの中で、子どもたちがどのように学びを創り、そしてつないでいくのかにこだわって実践を積み重ねてこられました。「移り気」で「細切れ」のカリキュラムとは距離をおき、周りにある自然と子どもの思いとをつなげた、息の長い実践です。今回は、私たちも単に受け身で講演を聴くのではなく、ときには身体をほぐして中河原先生の「実践」に身を委ねつつ、子どもの学びができあがっていく現場を想像し追体験したいと考えています。その過程で、教師(中河原先生)自身の関心と、子どもたちが経験するカリキュラムとの関係についても考察を深めていきます。(参考文献:中野光・行田稔彦・田村真広編著『あっ!こんな教育もあるんだ』新評論)

**参加自由・無料(色水づくり・草木染めも実体験する予定です)**

問い合わせ先:

慶應義塾大学教職課程センター

03-5427-1618 HP; <http://www.ttc.keio.ac.jp>

